

学術雑誌は誰のもの？

研究力強化とオープンアクセスのリテラシー

対象：本学教職員・学生

1. 開会挨拶・趣旨説明

早坂忠裕 理事・副学長（研究担当）

研究推進・支援機構知の創出センター長

ハゲタカジャーナルなるものが問題となっている昨今、本来あるべき研究の姿とはどういったものなのでしょうか。また、オープンサイエンスを支えるオープンアクセスが進むことで、私たち研究者にどのような影響が及んでいくのでしょうか。本セミナーでは本学の研究力強化の観点から大切なポイントをお伝えします。



2. 講演

大隅典子 附属図書館長

副学長（広報・共同参画担当）

研究に欠かせない学術雑誌は、現在、購読料に加えてオープンアクセスにするための掲載料（APC）の負担が大きくなりつつあります。大学は、そして研究者は、何をどこまで負担するべきなのでしょうか。学術情報発信の望ましい在り方を巡る海外及び国内の最新動向を紹介しながら、日本の研究者に必要な取組みを一緒に考えていきましょう。



会場とスケジュール

〔片平〕

4/16（火） 16:30-18:00
知の館 3F 講義室

〔星陵〕

5/24（金） 18:00-19:30
星陵会館大会議室

〔青葉山東〕

6/28（金） 15:30-17:00
センタースクエア中央棟 4F 中会議室

〔青葉山北〕

7/22（月） 16:30-18:00
理学研究科合同 C 棟多目的室

〔青葉山新〕

8/30（金） 16:30-18:00
青葉山 commons 内ラーニング commons

〔川内〕

9/27（金） 16:30-18:00
川内北講義棟 A103

◆主催：附属図書館、研究推進部研究推進課

（片平会場 共催：研究推進・支援機構知の創出センター



TOHOKU FORUM
for CREATIVITY

◆問い合わせ先：附属図書館情報管理課 lib_seminar2019@grp.tohoku.ac.jp

・事前申し込み不要

・各会場ともに同一内容ですが、開催時期の最新情報を反映させた内容となります。